

わかやま



和歌山県精神保健福祉センター 2022年11月 No.93

「多文化共生社会」の実現を目指して

和歌山県国際交流センター センター長 北山 徹

和歌山県国際交流センターは、国際交流や国際理解の推進、あるいは本県に住む外国人へのサポートを目的に設置された県の機関です。今回、このような機会を頂きましたので、在住外国人の皆さんが生活をしていくうえで困ることのないようサポートしている事例をご紹介します。はじめにご紹介するのは日本語学習支援です。日常生活のなかでもう少し日本語を流暢に話したい、勤めている会社の同僚とスムーズにコミュニケーションを図りたい、このような思いをお持ちの外国人の皆さんを対象に、地域で活躍するボランティアの方々との共催で「日本語クラス」を開設し、入門・初級から中級に至るまで受講者のレベルに応じた日本語学習の機会を提供しています。また日本の学校に就学・進学する児童生徒への日本語習得の相談を受けるケースもあり、この場合もボランティアの方々との協力をしながら出来るだけのサポートを行っています。

次にご紹介するのは相談事業です。日常生活の中でわからないことがあった、困ったことがあった時などにご利用いただくため、日本語、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語を対応言語として「外国人生活相談」を実施しています。直近の令和3年度には1年間で936件もの相談が寄せられました。国籍別には、フィリピンが最も多く、次いで中華人民共和国、日本、ベトナムの順になっています。相談内容としては、在留資格などに関する出入国関係が最も多く、次いで通訳や翻訳支援、そして労働・就労に関する相談などの順で寄せられています。2020年以降は新型コロナウイルス感染症拡大と相まって、「在留資格が切れるがどうしたらいいか」や「帰国便の確保ができない」などの相談が寄せられました。また技能実習生からは労働条件や賃金の支払いに関する相談なども寄せられ、当センターだけで解決が困難な事例については専門の機関と連携を図りながら相談者へのサポートを行った事例もあります。全国の在留外国人数は2021年末で276万6千人と10年前の207万8千人に比べ68万8千人、率にして133%増加しています。本県でも在留外国人数は年々増加し、同じく2021年末で7,132人もの方が市域を中心に暮らしています。国籍も80か国以上を数え、また在留の目的も留学や就労など様々です。私ども国際交流センターは、上記でご紹介した事例以外にも最近多発する大雨被害、本県での発生が予測される大地震への備えとしての防災・減災に関する情報提供や訓練の実施、様々な国を紹介する交流イベントも開催しています。お互いに文化や生活習慣の違いを認め合い、そして理解しあう場を提供することで、外国人の皆さんが地域社会の対等な構成員としてともに暮らせる「多文化共生社会」の実現を目指しています。

◆◆「もくじ」は、2ページ下部にあります◆◆

「リワークしました」

今年のリワークに励み、12月にその成果として2冊の本が出版されます。「リワーク」というと、うつ病の復職プログラムを思い浮かべるかもしれませんが、これは和製英語なので注意が必要です。本来のreworkというのは、「作り直す、再加工する、書き直す」という意味なので、英語でreworkと表記するととんでもないことになってしまいます。

さて、今回のリワークは過去に翻訳出版した本の改訂でした。ひとつは『思春期の親子関係を取り戻す（増補改訂版）子どもの心を引き寄せる「愛着脳」』で、2014年の初版に新たな章を加えただけでなく全体の翻訳を見直す、まさにリワークといえる大仕事でした。

もうひとつは『ABC-2 異常行動チェックリスト日本語版マニュアル』で、知的障害・発達障害者の行動障害の評価尺度として2006年に出版したABC-1の改訂版です。こちらは評価尺度自体の改訂ではなくマニュアルの改訂なので簡単に済むと思っていたのですが、今回は私のアメリカの師匠でもある原著者のエイメン先生から訳文に細かい注文があり、想定外の長期戦になってしまいました。

その一因が近年著しく進歩した機械翻訳で、日本語の分からない師匠も簡単に英語に翻訳してチェックできるようになってダメ出しが増えてしまいました。言葉の壁がなくなるのはいいのですが、これまで以上に熱いご指導には感謝しつつも、グーグルを恨んだりしたリワークでした。



もくじ

- P1 「多文化共生社会」の実現を目指して
- P2 「シリーズセンター長だより 52」
- P3 県精神保健福祉センターの開催報告
- P4～5 精神保健福祉協会ニュース
- P6 県精神保健福祉センターからのご案内
- P7 地域の様々な活動紹介コーナー「ケアする人のためのカフェ～ぼちぼち IKOKA～」
- P8 はーとふるネットワーク

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193



メンタルヘルスニュース

開催報告

【アルコール健康障害講演会（和歌山）】

令和4年10月23日（日）に、「飲酒と健康」をテーマにした講演会を県民文化会館で開催しました。「こころと体にやさしいお酒とのつきあい方」という演題で、東京都目黒区にある洗足メンタルクリニック院長重盛憲司先生よりご講演いただきました。お酒を飲むことが好きだというご自身の経験談を交えながら、健康的なお酒とのつきあい方について楽しく語っていただきました。当日は、酒造組合や酒販組合の方など、お酒に携わる仕事をしている方も含め、26名がご参加くださいました。



【アルコール健康障害講演会（田辺）】

令和4年10月29日（土）に、アルコール健康障害講演会を田辺スポーツパークで開催しました。「知って得するお酒の話～家族みんなの幸せと健康のために～」という演題で、医療法人和気会新生会病院院長和気浩三先生よりご講演いただきました。アルコール健康障害について、国民的アニメ「サザエさん」のエピソードを交えながらわかりやすく解説くださいました。

また、断酒会やAAの方が熱意のこもった体験談を語っていただきました。

20名の方がご参加くださいました。



【薬物関連問題にかかわるワークショップ研修会】

令和4年11月21日（月）に、薬物関連問題ワークショップ研修会を和歌山市のプラザホープで開催しました。和歌山ダルク代表理事池谷太輔氏より、「依存症の問題の本質と解決」という演題でご講演いただきました。

また、和歌山ダルクのスタッフより体験談を発表していただきました。当事者の生の体験談を聞き、参加者より「寄り添い、ともに向き合うことの大切さがわかりました」との感想が寄せられました。17名の方がご参加くださいました。



ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

精神保健福祉協会ニュース

わかやまこころのフェスタ 2022

(ふれあい人権フェスタ、りいぶるフェスタ同時開催)

令和4年11月19日(土)
和歌山ビッグホール



精神保健福祉センターのブース

自助グループの活動紹介や「ほっとする笑顔つながるこころの絵」入賞作品の展示。

■ グループ活動紹介



障害の有無や年の差があっても、共に助け合い、励ましあって、明るさと活気を忘れず、仲良く楽しく和太鼓演奏に取り組んでおられます。

「^{たご}田力」と「吉備どんどん」2曲を披露して、会場いっばいに活気を注ぎ込んでくれました。

社会福祉法人きびコスモス会
「吉備福祉太鼓」



■ 令和4年度和歌山県精神保健福祉協会長表彰式



永年にわたり精神保健福祉業務に従事し功績が著名な方と、精神保健福祉の普及啓発や精神障害者の社会復帰に貢献し、その功績が著明な方々が受賞されました。

永年勤続功労表彰

北垣内 弘 (きたがいと ひろむ) 様 和歌山県立こころの医療センター
森脇 美代子 (もりわき みよこ) 様 和歌山県精神科病院協会
関 美恵子 (せき みえこ) 様 医療法人田村病院

特別功労表彰

宮西 照夫 (みやにし てるお) 様 特定非営利活動法人ヴィダ・リブレ
亀岡 行雄 (かめおか ゆきお) 様 和歌山県断酒連合会新宮三熊野断酒会友綱
森崎 雅好 (もりさき まさよし) 様 わかちあいの会和歌山「うめの花」
長島 隆 (ながしま たかし) 様 和歌山県精神保健福祉士協会

■ 令和4年度『ほっとする笑顔つながるこころの絵』表彰式



絵をとおして、改めてこころの健康を考える機会にさせていただきたいと、見る人のこころが温まる「ほっとする 笑顔つながる こころの絵」を毎年、県民の皆さんから募集しています。

今年度は260の応募作品の中から、次ページの8名が受賞されました。受賞作品は、令和4年12月1日(木)から令和5年3月31日(金)まで和歌山県精神保健福祉センターグループセラピー室に展示予定です。

令和4年度ほっとする 笑顔つながる ころの絵入賞作品

精神保健福祉協会では、見る人のころが温まる「ほっとする 笑顔つながる ころの絵」を毎年募集しています。

今年度は260作品の力作をご応募いただき、どうもありがとうございました。応募作品の中から次の8作品が入賞しました。



最優秀賞 ^{ふくすみ みゆき} 福住 美裕紀
一般
テーマ「ゆっくりゆっくり」



優秀賞 ^{はせ はるか} 長谷 春華
県立和歌山高等学校3年
テーマ「ほっとする笑顔」



優秀賞 ^{ますおか ひろたか} 舛岡 弘崇
障害者就労支援施設 Remon
テーマ「夜空の中を走るバス」



入選 ^{しま こうしょう} 嶋 康勝
鷗森幼稚園 年長
テーマ「野菜のダンス」



入選 ^{かわくぼ あやの} 川久保 綾乃
智辯学園和歌山小学校4年
テーマ「ゆるふわ猫」



入選 ^{こばやし ひろ} 小林 妃呂
一般
テーマ「猫と一緒に」



入選 ^{ささやま かずき} 篠山 和季
近畿大学附属和歌山中学校2年
テーマ「絆」



入選 ^{やまさき あやみ} 山崎 文美
和歌山市立楠見中学校3年
テーマ「美容室ごっこ」



和歌山県精神保健福祉協会

ご案内

【自死遺族支援関連研修】

わかちあいの会和歌山「うめの花」第11回交流会 講演会&コンサート



- 開催日 令和4年12月17日(土) ■12:30~14:00 講演会
12:30~14:40(※16:00) 演題「かたくなった心、少しだけふわり~とゆるめてみませんか」
- 場所 精神保健福祉センター プレイルーム 講師 岩崎 順子氏
(和歌山市手平2-1-2 ビッグ愛2階) (いのちの講演家・(公財)和歌山県人権啓発センター登録講師)
- 対象 どなたでもご参加いただけます ■14:10~14:40 音楽会(邦楽)
- 定員 30名・入場無料(申込必要) 箏(糀谷 有桜氏)及び尺八(丸田 鹿山氏)演奏
■14:50~16:00 わかちあいの会交流会(※自死遺族の方限定)

【精神保健福祉職員専門研修】



○講演会 演題『アルコール健康障害の切れ目のない支援 ~SBIRTSの普及と実践~』

講師:辻本 士郎氏(ひがし布施野田クリニック 名誉院長)

- 日時 令和5年1月20日(金) 13時30分~15時50分
- 場所 和歌山ビッグ愛 2階 201会議室(和歌山市手平2丁目1番2号)
- 対象 保健福祉、医療、行政等で相談支援に携わる方
- 定員 先着40名・参加費無料 ※センターへ電話もしくはFAXにて申込みください。

SBIRTSとは、飲酒問題を抱える人に、スクリーニング検査を実施して簡易介入を行い、依存症の疑いがあれば専門医療機関につなぎ、自助グループを紹介する方法です。

【ギャンブルに伴う借金問題に関する弁護士相談会】

- 日時 令和5年2月11日(土) 13:30~16:30
- 場所 和歌山県民文化会館 4階 405会議室(和歌山市小松原通1丁目1)
- 対象 ギャンブルに伴う借金問題を抱える当事者、ご家族など
- 定員 先着4組・参加費無料 *センターへ電話またはFAXで申込ください



【ギャンブル等依存症者支援従事者研修】



○講演会 演題『ギャンブル依存との向きあい方 ~人生や生活課題の視点で~』

講師:中村 努氏(ワンダーポート 施設長)

- 日時 令和5年2月20日(月) 13時30分~15時30分
- 場所 和歌山ビッグ愛 12階 1201会議室(和歌山市手平2丁目1番2号)
- 対象 保健福祉、医療、行政等の援助職従事者
- 定員 先着40名・参加費無料 ※センターへ電話もしくはFAXにて申込みください。



【参加にあたってのご注意】

新型コロナウイルス感染症の蔓延状況により、講演会を中止する場合があります。

当日、体温測定や問診票等で体調チェックを行い、体調不良が認められる場合は受講をお断りする場合があります。

【申込み・問い合わせ先】

和歌山県精神保健福祉センター 〒640-8319 和歌山市手平2-1-2 県民交流プラザ”和歌山ビッグ愛”2階

☎073-435-5194/FAX073-435-5193/e-mail: e0503011@pref.wakayama.lg.jp

地域の様々な活動紹介コーナー

一般社団法人共助のまちづくり協会の傾聴ボランティアさんによる傾聴カフェの取り組みについて御紹介します。一般社団法人共助のまちづくり協会 理事長 島久美子さんに伺いました。



ケアする人のためのカフェ～ぼちぼち IKOKA～

この活動のきっかけは、2013年2月和歌山市で開催された「ケアする人のためのセミナー」でした。当時社会的には、老々介護の家庭内や高齢者施設内での傷ましい事件が表面化。ケアする立場の方たちの「ストレスの強さ」が露呈され「家族だから尽くしてあたりまえ」「仕事だから頑張るあたりまえ」という考えから、サポートの必要性が認識されようとしていました。セミナーは、介護者や介護福祉従事者に大きな反響があり「ケアする人たちをケアする意義」を学ぶことができました。

セミナー後、開催実行委員メンバーは、この活動を一過性で終わらせるのではなく具体的に継続性のあるものにしたと強く願いました。みんなで知恵を出し合い2014年秋に「気軽に誰でも参加できるカフェ形式の交流の場」をスタート。ボランティアによる運営で、会場は、協賛団体から提供して頂きました。セミナー参加者の「聴いてもらえるだけで、気持ちが少し楽になる」という言葉を大切にして、傾聴することを主眼にしています。以来、毎週土曜日に傾聴ボランティアの皆さんが、多くの方々の声を聴き続けてきましたが、コロナ禍でこの3年間は活動休止を余儀なくされました。「ケアカフェの再開はいつ？」との声も寄せられる中、今年10月より開催日を縮小して活動再開することになりました。私たちは、ケアする「あなた」の気持ちに寄り添う場をめざしています。是非お立ち寄りください。

♡開催日：毎月第一土曜日 13:00～16:00 参加費1000円（飲み物代）

♡場所：和歌山市三沢町2丁目23-3むぎピース1階 お茶の間★あい愛

♡参加申し込み：必要なし（いつ来ていつ帰っても大丈夫です）

♡問い合わせ先：ケアカフェ事務局 島久美子（090-8533-1938）



【取材後記】

「お茶の間★あい愛」は、麦の郷和歌山生活支援センターと就労継続支援B型作業所むぎピースの建物の一角で、和歌山高齢者生活協同組合（以下同組合と略す）の非組合員の方も利用できる高齢者向けのみんなの居場所の名称です。

実は島久美子さんは同組合の副理事長を務められています。傾聴カフェにいらした方が居場所につながることもあるそうです。このような取り組みは、正しく国が目指している重層的支援のひとつと言えます。生活に身近な場所で住民が主体的に悩みを聴く、一緒に社会参加のための活動をするこれまでの事業の枠組みを超えた多様な活動が期待されています。

皆さまは、「仕事だから頑張るあたりまえ」になっていませんか。

和歌山県精神保健福祉センターだより「わかやま」への掲載記事募集！！

日頃より、精神保健福祉の推進にご協力いただいている施設・団体の皆さまの活動紹介やPRなど、当センターだよりに掲載させていただき記事を募集いたします。イベントや新しい取り組み等、広く周知させていただきます。

*センターだより発行時期：年4回（5月・8月・11月・2月それぞれの下旬）

*掲載時期や掲載枠については限りがありますので、まずは和歌山県精神保健福祉センターにご相談ください。



精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナー

はとふるネットワーク

今回は、基幹相談支援センターにしむろ 主任相談支援専門員 龍田俊夫さんです。

-自己紹介、相談支援専門員になられたきっかけは？



タツタトシオ 51 歳です。田辺市社会福祉協議会にお世話になりましたのが 30 歳のときです。それまでは、ガス屋や軽天屋といった仕事をしていました。たまたま地域福祉課で、障害者相談支援事業担当になったことから、今日に至ります。当時はまだ、障害種別で相談体制がわかれており、田辺市社協は、身体障害の方の相談支援を担当していました。ですので、相談支援専門員という資格ができる以前の障害者ケアマネジメント従事者養成研修修了者ということで仕事をしてきました。

-「基幹相談支援センターにしむろ」は、どのような機関ですか？

西牟婁圏域（田辺市・みなべ町・白浜町・上富田町・すさみ町）から地域の 4 つの社会福祉法人（県事業団・ふたば福祉会・やおき福祉会・田辺市社協）が委託を受けて運営している基幹相談支援センターです。事務所は、田辺市民総合センター 2 階にあります。私は田辺市社協からにしむろに出ているという立場になります。「にしむろ」は主に地域の相談支援専門員の育成や事業所間の連携、研修開催、また自立支援協議会の事務局をいう仕事を担っています。直接、利用者さんと接触する機会は少なくなっています。少し寂しいですね。

-龍田様のお仕事やその魅力は？

以前は、同じ相談支援業務でも市町村相談支援事業といって、地域に暮らす障害のある方・その家族等と直接お会いして、なにか困りごとの解決にむけた取り組みや話し合い等をさせていただき業務に携わっていました。今は、おひとりおひとりの相談支援に携わる相談員にアドバイスしたり、話を聞いたり、研修会を開催したりということが仕事になっています。後輩の相談員が、右往左往されているときに、何か支援の手がかりになるようなことに気づいて、「あ〜そういうことか。龍田さん言うてたのはこのことやってんな〜」というようなとき、あ〜伝わって良かった〜。と思いますね。

-担当する地域が広いのですがどのような工夫をなさっていますか？

特に工夫はしていません。すさみ町へ行くのに約 45 分、同じ田辺市内でも本宮だと約 70 分かかりますので、近いか遠いか言うてもしゃないわ〜と割り切っています。

-最近のトピックスや、楽しかったことは？

普段から音響のお手伝いをする機会が多く、先月にキミト☆ミライさんを会場に、演劇の音響をさせていただきました。演者さんや主催者さんに喜んでいただきとても嬉しかったです。地域のイベント会場等で、みなさんとお会いする機会もあると思います。また公認心理師試験に合格したこともここ最近ではとても嬉しかった出来事です。

-今後の構想について

相談支援も音響も自分以外が主役で、主役にかに輝いてもらえるか。お客さんやとりまくみなさんに喜んでもらえるか。という視点ではとても似ています。裏方稼業を続けながら、自分もまた表現者として、表舞台上で歌う機会をつくってこうと考えています（笑）

「地域づくり」をとても聞きますし、自分から言うことも多いですが、何か自分ができることをできる機会に精一杯やっていたら、結果的に地域づくりに繋がっていくのではないかと考えて活動しています。

-読者の皆様へのメッセージ

紀南地方で開業していただける精神科医を絶賛募集中です。ぜひ人の温かい地域ですのでご検討ください。

-次の方のご紹介をお願いします

あみだ食品 代表 松本なお 様です。本当にハートフルな素敵な方です！